戦間期コート・ダジュールの保全と開発

三田村哲哉

フランスは大西洋と地中海に面しており、30ほどの短冊状に区切られた海岸線に魅力的な名前が付けられている。1887年に発表された作家ステファン・リエジャール（Stéphen LIÉGEARD： 1830-1925）の著作『ラ・コート＝ダジュール La Côte d'azur』に由来する紺碧海岸はそのうちの1つで、国内で最も美しい屈指の海辺である。その範囲は一般にマルセイユの南東にあたるカシからイタリア国境に隣接したマントンまでで、グリマルディ家がフランスとイタリアの間の小国をカジノで大成させたモナコや、イギリス人が療養のために訪れるようになり、英国人の散歩道が通された太陽の国の首都ニース、イギリス貴族の滞在を契機に開発が進み、第2次大戦後から映画祭で発達したカンヌはその東側にまとまっている。

ミュゼ・ソシアルで準備された「都市の開発・美化・拡張 L'aménagement, l'embellissement et l'extension des villes」を目的とするフランスで最初の都市計画に関する法律、コルニュデ法が1919年3月14日に成立し、1924年7月19日に改正・補足されると、国内ばかりでなく植民地や保護領で都市計画が盛んに検討されるようになる[1]。たとえばフィラデルフィアのベンジャミン・フランクリン・パークウェイ（1917）を描いたジャック・グレベール（Jacques GRÉBER: 1882-1962）はリールやマルセイユの都市計画を手がけた。同様に、バルセロナからイルデフォンソ・セルダ（Ildefons CERDÀ: 1815-1876）の理論「ウルバニザシオン Teoría general de la urbanización」を伝えたレオン・ジョスリー（Léon JAUSSELY: 1875-1932）はグルノーブルやヴィッテル、トゥルーズ、ポーの、リオデジャネイロ（1932）の都市案をまとめたアルフレッド・アガシュ（Alfred AGACHE: 1875-1959）はダンケルクやオルレアンの、第二次大戦後に都市計画の理論を追求したガストン・バルデ（Gaston BARDET: 1907-89）はヴィシーの案をまとめたように、フランスでは建築家たちが第一次大戦後から本格的に都市計画を手がけるようになる。

ヴァール県知事テオフィル・バルニエ（Théophile BARNIER: 1882-1963）がコルニュデ法に後押しされて、西がカシの東側のサン＝シル、東はカンヌの西に位置するサン＝ラファエルまでの26の地方自治体をまとめて、同県・市町村自治体連絡協議会（Syndicat des communes de la Côte d'Azur varoise）を結成し、モロッコ初代総督で元帥となるユベール・リヨテ（Hubert LYAUTEY: 1854-1934）から紹介されたフランスの建築家・都市計画家アンリ・プロスト（Henri PROST: 1874-1959）が写真を撮影しながら丹念に調査して、1923年3月17日に同協議会案を発表した[2]。これらの地方自治体に含まれる海岸線の範囲はコート・ダジュール全体のうちの大半に及び、その目的はプロストがいう「未開sauvage」の美しい自然の保全と新た

な道路網および住宅地の建設という都市の開発、通常まったく相容れない行為の両立であった[3]。アントウェルペン（1910）やモロッコ（1914-23）で居住地ばかりでなく城壁などの歴史遺産の保全を主張したプロストがどのような形で自然遺産に取り組んだのかが鍵である。

本案は基本計画、いわゆるマスタープランと称されるヴァール県コート・ダジュールの全体像を描き出したもので、実現に向けた実施計画や詳細検討は各自治体の担当者に委ねられることになるが、サン＝シルからサン＝ラファエルまでの全体を描いた1点の全体図（図1）よりもむしろ、地域毎に緻密に記された62点の部分図（図2）の方が興味深い。綿密な調査に基づいたプロストによる詳細な指示が1/10,000の地図の上に読み取れる。前者は主に既存の道路網の維持および補修と新たな道路網の建設を指示したものであるのに対して、後者には実に幅広い内容がそれぞれの地域に対して詳細かつ的確に赤字で細かく記された。たとえば、海水浴場へのアクセスを分断しない道路の整備、現在の砂浜の様子と将来像、駅の予定地、海辺の保護の範囲、松林を保護するための道路の位置の変更、城郭の保護の方法、眺望のよい場所とその方角、急勾配の新設道路と良好な景色、建築不可の地域、展望台の建設とその位置、住宅地の建設予定地、散歩道の新設、丘陵地の保護の範囲などである。本案は国土計画に匹敵する広大な範囲を対象にしたものであるが、この手法は当時、造園家だと評価されたように、全体ばかりでなく部分にいたるまでの詳細な検討が功を奏したのだ[4]。戦間期コート・ダジュールの開拓案は保全と開発という基本方針の下、全体を網羅した枠組みの構築と個別の検討に基づく部分の集積を組み合わせることによって描かれたのである。

---

[1] Loi du 14 mars 1919 concernant les plans d'aménagement, d'embellissement et d'extension des villes. Loi du 19 Juillet 1924 modifiant et complétant la loi du 14 Mars 1919 concernant les plans d'aménagement, d'embellissement et d'extension des villes.

[2] PROST (Henri), *Syndicat des communes de la Côte d'Azur varoise, Projets d'aménagement 17 mars 1923*, 1923. 14Fi1à113, Archives départemental du Var à Draguignan.

[3] GEORGES-RISLER (Manier), "Travaux des Séctions, Séction d'hygiène urbaine & rurale & de prévoyance sociale", *Le Musée social*, année 1925, Paris, 1925, pp.109-110.

[4] VAILLAT (Léandre), "Paysages et maisons de Provence", *L'Illustration*, no.4278, Paris, 28 février 1925, pp.189-193.

＜図版出典＞

図1　PROST, *op.cit.*, 2)

図2　Ibid.　筆者一部修正

図1　ヴァール県・市町村自治体連絡協議会案　全体図　1923年3月17日　アンリ・プロスト

図2　同案　サン＝トロペの部分図　1923年3月17日　アンリ・プロスト

実線：既存道路の整備・拡張および連絡　点線：新設道路